



K 中通信

学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/karuizawa/>

学校だより 3号
令和元年5月20日
横浜市立軽井沢中学校

【学校教育目標】 『主体的に考え行動し、未来を切り拓く生徒の育成をめざします』

- 様々な関わりを通し、よりよく解決する力を育てます（知・徳・公）
- 持続可能な社会の実現を目指し、しなやかに生きる力を育てます（体・開）



大輪の 薔薇それぞれに 顔を持つ

安部 桂

校長 星野 久美子

横浜市の花はバラ。横浜の街がバラでいっぱいになる「横浜ローズウィーク」が6月2日まで開催されています。四季咲きのバラもありますが、爽やかな初夏のバラはとても素敵です。バラの甘い香りや色とりどりの美しい姿は、見る人を癒し、そして元気づけてくれます。山下公園や港の見える公園をはじめ市内の各場所でイベントが行われていますが、西横浜駅そばの横浜イングリッシュガーデンも会場となっています。

5月になり新しく令和の時代が始まりました。例年は5月1日に行われていた授業参観・学校説明会・PTA総会でしたが、今年は10連休のため11日土曜日に開催されました。ご多用のところ、多くの保護者の方にご来校いただきましたことをお礼申し上げます。また、授業アンケートにご協力いただきありがとうございます。新しい学年になり、家庭生活とはまた違った授業中のお子さんの姿にどのような思いを抱かれたでしょうか。

中学校の教育活動の中で大きなウエイトを占める「授業」の在り方は、昭和・平成・令和と時代が進むにつれて大きく変化しようとしています。新制中学校の創設期には、生徒数の増加に教室や教員の数が足りなかったために午前・午後などの2部に分けて授業を行ったという話を聞きました。1クラスの人数が60人ほどのこともあったようです。私が中学生の時のクラスは、45人ほど生徒がいたように記憶しています。教員になってから、1学級あたりの生徒数が40人になりました。現在は少人数指導やTT（チームティーチング）の導入などで、個に応じたきめ細かい指導が展開されています。多くの生徒に対して一斉に教師が指導するだけでなく、少人数のグループに分けて教師が指導することが増えてきました。そして21世紀が「知識基盤社会の時代」と言われるようになって重要視されているのが、ICT（Information and Communication Technology：コンピュータやインターネットなどの情報コミュニケーション技術のこと）教育です。

子どもの主体的な学びを引き出したり、他者と協働する中で個性や能力を伸ばすためには、ICTを活用する情報教育は欠かせないものと言われています。しかし、ICTを活用した授業準備については多くの教員が取り組んでいるものの、子どもたちがICTを活用する授業指導については課題が残っています。そのため、横浜市では今年度より小学校全校にICT授業支援員が派遣され、機器の操作等を説明したり、機器のトラブルや基本的な操作ミスなどにきめ細やかに対応しています。本校でもICT授業支援員が年間48回学校支援に派遣され、授業支援や機器環境の準備、授業後の片付け補助や次の授業への機器の引継ぎを行います。

先日の総合的な学習の時間では、1年生がパソコンルームと図書室に分かれ、鎌倉遠足事前学習で自分が選んだ寺社仏閣についての調べ学習に取り組みました。事前にICT授業支援員と学校司書が打合せをすることで、学校図書館の本やパソコン教室のパソコン、そしてタブレットをより効果的に利用することができました。清里自然教室から帰ってきた2年生は、プレゼンテーションソフトを用いて、国語の授業で事後学習の成果を発表する予定です。ここでも教師の代わりに機器の操作等を分かりやすく説明するICT授業支援員の姿が見られることでしょう。「地図を読み取る授業で、地図の場所をグーグルマップの航空写真と比較してみたい」「意見を集計する時に、テレビに集計結果を映したい」「普段あまり意見を言わない生徒の意見を画面にツイートのように映したい」「生徒が関心ある教材の一部分を拡大して見えるようにしたい」など、授業でICTをどのように活用するのか先生方のイメージもふくらんできました。子どもたちが興味をもって主体的に取り組む授業になることを大変楽しみにしています。